



地域医療の中核となる信頼される医療を目指して

# hope

創刊号

希望  
発刊日 2024年4月1日



稲城市立病院  
INAGI Municipal Hospital



# Saitoh Jun-ichi

院長ごあいさつ  
Greetings from the director

病院長 齋藤 淳一

地域の拠り所となる病院をめざして  
求められる医療の充実を図る

稲城市立病院は稲城市が運営する公立病院であり、稲城市および周辺の多摩地域の皆さまにとって、必要なことは何かを常に考え日々診療にあたっています。

私が平成11年に当院に赴任してきたときは、この辺りは山に囲まれ住宅もまだ少ない地域でした。それから人口は増え続け、若い方から昔からお住まいのご高齢の方まで、幅広い年齢層の方が住む町となりました。そこで当院では市立病院として、高齢者への医療はもちろんのこと、救急医療や小児医療の充実を使命と捉え取り組んでいます。

また、当院では、稲城市医師会、地域の診療所や大学病院などとの連携を強化し、市民の皆さまのための医療の向上に努めています。令和4年4月には「地域医療支援センター」を立ち上げ、急性期の治療を終えた方がスムーズに地域へと戻り、途切れることなく医療や看護が受けられる体制を整えました。また、令和5年8月には紹介重点医療機関となり、地域の先生からの紹介患者さんを積極的に受け入れています。

私は慶應義塾大学医学部外科の医局に属しながらも、この病院が好きで令和6年で勤続25年目を迎えることとなりました。私にとっても思い入れのある病院であり、この病院がさらに発展していくよう今後も尽力してまいります。

私が最も大切にしているのは「信頼とぬくもりのある病院でありたい」ということです。病院が丸となって患者さんに心から寄り添う医療で、地域の皆さまの拠り所となる病院をめざしてまいります。お困りのときはぜひ頼りにしていただけばと思います。





看護部

# 座談会

Round-table talk

特定看護師・認定看護師が患者さんのためにできること

— 特定看護師、認定看護師とは  
どんな資格なのでしょうか？ —

**山村** 特定看護師は、一般の看護師教育に加えて2年間大学院で医学について詳しく学び、医学と看護の両方の知識をもって特定行為という診療の補助行為を行います。病気だけではなく患者さんの生活や社会的背景など全体を見てケアができることが強みです。私が今担当しているのは、特定行為の一つであるPICCという末梢中心静脈カテーテルの挿入です。また、内科系の病棟に入院する患者さんの病状を見て、どの病棟に入るのが良いかを判断しています。

**板林** 認定看護師は、半年から1年間で21分野に特化した専門的な知識と技術を学び、臨床の場で実践しています。感染管理認定看護師は、病院全体の院内感染を管理するのが大きな目的で、すべての院内感染のデータを収集して状況を把握し、指導する役割を担っています。コロナ禍では、患者さんと職員を守ることを主軸に3年間全力を尽くし、大きなトラブルもなく乗り越えました。

**吉原** 私は緩和ケア認定看護師です。緩和ケアはがん患者さんだけのものと思われがちですが、がん、非がんを問わず、お体のつらさや気持ちのつらさ、経済的、社会的なつらさなど、患者さんやご家族のケアにあたっています。

**藤井** 手術看護分野の認定看護師として、主に手術室の中で活動しています。手術看護は、手術期から退院を見据えた幅広い看護が求められ、手術が決定すればいち早く患者さんと関わります。必要な情報を麻酔科の医師や診療部の医師と共有し看護を提供することで、安心して手術に臨めるお手伝いをさせていただいています。

— 患者さんやご家族との関わりで  
大切にしていることはありますか？ —

**吉原** どんな苦痛を抱えているのか、今後どうしたいのかを丁寧にお聞きするように心がけています。ありのままの患者さんやご家族を受け止めることが治療や療養の選択の支援につながります。得た情報、感じたこと、考えを医師やスタッフと共有し、患者さん、ご家族、医療者の橋渡しになればと思います。

**藤井** 術前オリエンテーションではなるべく安心していただけるように、時間をかけて患者さんのお気持ちを引き出せるように気をつけていますね。手術室で泣き出してしまいう患者さんに私がよく言うのが「ここで思っきり泣いてしまいましゅう」ということ。患者さんの想いに寄り添った看護を日々追求しています。

**山村** 大切にしているのは、患者さんに合わせて物事を進めることです。PICCを挿入する際も患者さんの療養生活の中で一番余裕を持って受けられる時間に設定し、今日が駄目なら次の日ということも。そして、患者さんとの信頼関係において何よりも大切なのは特定行為を確実に行うことなので、技術を磨くことも重視しています。

**板林** コロナ禍では、何をしなければいけないかを丁寧に説明することで、不安が解消されるように努めています。「対策すれば大丈夫」と伝えることで安心感を与えられるように意識していましたね。感染対策について医師からの相談も増え、専門知識が持てて良かったと役割を実感しました。



看護師長(緩和ケア認定看護師)

吉原 麗子さん

統括看護科長(特定看護師)

山村 若菜さん

看護部長(感染管理認定看護師)

板林 恵子さん

看護師長(手術室看護認定看護師)

藤井 早苗さん





——日々の業務の中でどんなときにやりがいを感じますか？——

**山村** 患者さんやご家族が、先生には言えなかったけれど……と自分の考えを話していただけたときは自分の存在価値を実感します。患者さんやご家族の本音をもとに良いケアができたときはやりがいを感じますね。日々誠実であることで信頼関係ができあがっていくのだと思います。

**吉原** 痛みのコントロールがうまくいったからといって、それが必ずしも患者さんやご家族にとって満足のものとは限りません。これで本当に良かったのかと自問することも多いのですが、それでも本音に近づけたと思える瞬間があったときは良かったと思います。緩和ケアは答えのない分野。これからも答えを探して進んでいきます。

**藤井** 術後に合併症がなく、成果が見られたときにはやりがいを感じ、それが活力になっています。小児の患者さんにはぬいぐるみを使って説明したり事前に手術室を見せたりと、一人ひとりの患者さんに合った看護に手術室全体で取り組んでいます。

**板林** 感染管理では患者さんの安全を守ることが第一で、それを達成するためにはスタッフ全員で取り組まなくてはなりません。認定看護師になって15年がたち、手指衛生の回数が増えたなど、ようやくスタッフの意識が変わってきました。そこに自分関わっているんだと思つとやりがいがありますね。

——最後に地域にお住まいの方へメッセージをお願いします。——

**山村** 訪問看護の現場や地域のクリニック、稲城市医師会の講演会などさまざまな場所で私たちの持つスキルを発揮しています。これからもどんどん地域に出て、地域の皆さまが何を望んでいるか、何をすれば役に立っているかを考えながら地域医療に貢献していきたいです。いろいろな場所で皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。

**板林** 院内だけではなく、地域の感染症対策にも力を入れていきたいと考えています。「当院は感染対策が万全なので安心ですよ」と言えるように、今後も活動してまいります。  
**吉原** 急性期病院として私たちがお手伝いできることがたくさんあると思うので、ぜひ当院に来て私たちの専門性をうまく活用していただきたいです。

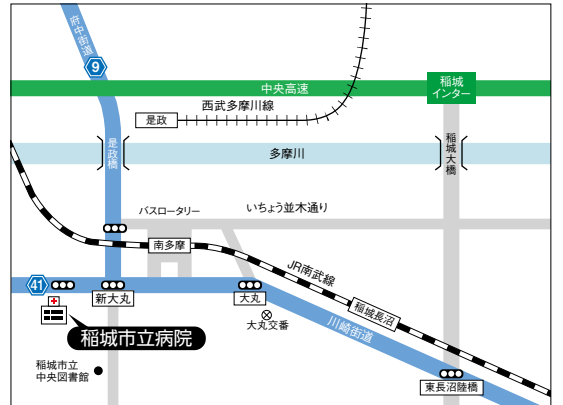
**藤井** 手術室の目標は少しでも安心して手術を受けていただくことで、「ここで手術を受けて良かった」と思えるような看護を常にめざしています。プロフェッショナルなスタッフがそろっていますので、安心して手術を受けていただきたいです。少しでも不安があるときは、遠慮なくお申し出ください。



**稲城市立病院**  
INAGI Municipal Hospital

〒206-0801 東京都稲城市大丸1171番地 TEL.042-377-0931(代表)

- 初診受付** 平日8:00~11:00
- 再来受付** 平日8:00~11:30
- 専門受付** 平日13:00~15:00(完全予約制)
- 休診日** 土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日~1月3日)



最寄駅:JR南武線 南多摩駅南口 徒歩約8分

<https://www.hospital.inagi.tokyo.jp/>

